

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。</li> <li>2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。</li> <li>3 多様な生徒に対して、一人ひとりが大切にされていると実感させる。</li> <li>4 生徒の主体的な学びに喜びを見出し、解決する力、伝える力を身につけさせる。</li> <li>5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。</li> </ol>
---------------------------	--	----------------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 ( )月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
充1 実進 路指 導の	○進路実現のため の系統的 な指導方 法の充実	○ここ5年間進路実現100%が 続いており、指導方法が確立・定 着しつつあるが、より質の高い 進路実現を追究していくべく、 第1志望を実現させる果敢な指導 が求められる。	○適切な時期に進路学習が行わ れ、進路実現に結びついている。 ○進路実現100%、また、第1志望で の合格内定率が90%達成。 ○2年次末までの進路希望未決定 者10%以下。	○進路面談や進路学習を学年との連携により 強化し、3年間を見通した系統的な指導方法 へ深化させる。 ○全職員による懇切丁寧な面接等の実施。 ○進学希望者への指導内容を研究し、指導体制 を確立する。			
2 生徒 指導 の充 実	○基本的 な生活習 慣とマナ ーの定着	○服装頭髪再検査者数は前年に 比べやや増加傾向である。再検 査者数は1クラス平均10人である。	○挨拶、返事、服装等のマナーと基 本的生活習慣が身に付いており規 範意識を持っている。 ○再検査者数は1クラス平均5人以内 になっている。	○全校朝会や服装頭髪検査の実施による校 則の徹底指導と、全職員による日常的なき め細やかな指導を充実させる。 ○家庭との連携を密にとり、生活環境を整え る。			
	○豊かな 人間関係 づくりの 推進	○メール・LINE等による友人とのや り取りで小さなトラブルが起き、不 安感を感じる生徒がいる。	○携帯電話等に頼らず自分で考 え、直接話をすることの重要性を 知っている。 ○携帯電話等の使用マナーが身につ いている。	○生徒会主催の情報メール研修会等の取組を充 実させる。 ○岩美高生としての自覚や誇りを持てるよ う学校祭その他の行事を企画する。			
	○生徒会 活動の充 実	○部活動に所属していない生徒が 若干名となっている。全員加入 に向けての指導が必要である。	○部活動全員加入を継続し部活動 をとおして忍耐力や礼儀の向上に つながっている。 ○生徒の自主的なボランティア活動や 美化活動が行われている。	○部活動加入指導を徹底する。 ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進 する。			
の3 充 実 ・ 人 権 教 育	○個を大 切にした 教育環境 の改善	○生活満足度アンケート結果では、自 分に自信が持てない傾向にあり、 生徒の自己肯定感を高める必要 がある。 ○授業および教育環境のエンハ ンスデザイン化(UD化)が進みつつあ る。	○生徒にとって学校が居心地のよい 場所であり、大切にされていると実 感できる。 ○学校評価生徒アンケートで、UD化に関 する質問への肯定回答が80%以上を 達成する。	○生徒の自己理解・他者理解を促し、自己肯 定感が高まるような取組を工夫する。 ○岩美高版UD等チェックリストを作成・活用し、UD 化や効果的な指導・支援を進める。			
4 学 習 指 導 の 充 実	○基礎学 力の向上	○1つツツ検定全教科の初級合格率 は1年末で18%、2年末71%であ った。3年末100%は達成している。 ○家庭学習時間は平日で1日平均 65分、30分未満の者が31%であ る。家庭学習が習慣化する必要 がある。	○1つツツ検定全教科の初級合格率を 1年末で40%、2年末で70%、3年末で 100%を達成する。 ○平日において1日1時間以上の家 庭学習が習慣化され、特に、30分 未満の者が30%未満を達成する。	○1つツツ検定合格率が向上するよう、教科と学 年団で実状を共有し連携して補習等に取り 組む。 ○家庭学習時間が少ない生徒に対して学年 団で面談指導を実施する。			
	○学習指 導の改善	○生徒の実態を踏まえた授業の 工夫がなされているが、苦手意 識がぬぐいきれず一層の学ぶ意 欲が求められる。	○生徒が主体的に学ぶことに喜び を見出し、解決する力、伝える力 が身についている。	○教室のUD化を促進し、アクティブラーニング(AL) 等の校内研修会、公開授業月間を実施し、他 校の研究授業等への参観を行う。 ○全ての生徒に分かり易く、学ぶ意欲が向上 する授業を研究し共有化を図る。			
5 開 か れ た 学 校 の 充 実	○地域と 連携した 学校づく りの推進	○研究開発学校の実践を継承す る「1つツツ・ミッション」を開始した。 ○体育・福祉の授業や部活動で 地域との交流が行われている。 ○「1つツツ・ミッション」を核として地 域と連携した人材育成のしくみを 確立させる必要がある。	○生徒が、地域と連携し地域に貢 献する活動に意欲的に取り組んで いる。 ○感謝と支え合いの心を持って、 地域に貢献していこうとする精神 が育っている。	○研究開発学校の実践の蓄積を生かしつつ 地域連携をより深められるよう「1つツツ・ミ ッション」を工夫する(活動内容の充実・授業時間 数の確保・学校設定科目化の検討)。 ○校外での発表や他校との交流の機会を設 ける(村岡高・鳥取中央育英高・室戸高・ 神大附属校・環境大等)			